

「トピックス」 令和7（2025）年度

第7回 「令和の日本型学校教育①」

第7回と第8回の2回シリーズで、「令和の日本型学校教育」を取り上げます。

近年、社会の変化がますます加速する中で、子どもたちが未来を生き抜く力を育むために、学校教育も大きな転換期を迎えています。文部科学省が提唱する「令和の日本型学校教育」は、これからの時代にふさわしい教育のあり方を示す新しい指針です。

この教育モデルの柱は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立です。つまり、一人ひとりの子どもの興味や理解度に応じた学びを大切にしながら、仲間とともに考え、話し合い、協力して課題を解決する力も育てていくという考え方です。

これまでの学校教育では、知識を効率よく習得することに重点が置かれるという傾向が強く見られました。しかし、令和の時代に求められるのは、知識を活用しながら、自ら課題を見つけ、他者と協力して解決していく力です。そのためには、教室での一斉授業だけでなく、ICT（情報通信技術）を活用した個別学習や、グループでの探究活動など、多様な学びの形が必要になります。

また、「令和の日本型学校教育」では、地域との連携も重視されています。学校は地域社会の一部であり、地域の人々と関わることで、子どもたちは実社会の課題に触れ、より深い学びを得ることができます。町内の企業や団体との協働、地域の自然や文化を活かした体験学習など、学校と地域がともに子どもを育てる仕組みが求められています。

安芸太田町教育委員会では、こうした新しい教育の考え方を積極的に取り入れながら、子どもたちが自分らしく成長できる環境づくりを進めています。先生方は授業の工夫を重ね、ICT 機器の活用も広がっています。また、地域の皆様のご協力により、学校外での学びの機会も増えています。教育委員会としても学校の先生方の取り組みを支えるべく、研修の幅を広げるとともに、内容の充実を図ります。

「令和の日本型学校教育」は、単なる教育改革ではなく、未来を担う子どもたちの可能性を広げる挑戦です。

新しい教育の推進に、皆様のご理解とご支援をお願いします。